

2050年における北海道のあるべき姿について

国土交通省北海道局

令和4年5月23日

2050年における北海道のあるべき姿

- 国の課題解決に貢献するために北海道が果たすべき6つの役割を踏まえて、これからの北海道の目指す方向性を考える。
- 2050年を見据え、北海道のあるべき姿を6つの役割を、9つの項目から描くことでどうか。

①ターゲットイヤーの設定

- 次世代の暮らしを守る視点に立って新たな北海道総合開発計画を考えるためには、次世代を担う若者たちが主役となる中長期を見据えて、北海道の目指す方向性を考える必要がある。
- 世界を取り巻く潮流の最大の課題の一つである地球温暖化に関しては、2050年をターゲットとして全世界で脱炭素化の動きが始まっている。
- 日本においても、2050年カーボンニュートラル宣言も踏まえた、パリ協定に基づく成長戦略としての長期戦略、グリーン成長戦略、次期国土形成計画等の国の政策、また、民間団体等においても2050年を見据えた議論が行われている。

2050年を見据え、バックカastingを意識しつつ、北海道が目指す方向性を考えてはどうか。

②あるべき姿を描く9つの項目

- 2050年を見据えた北海道の目指す方向性の整理に当たっては、これまでの北海道総合開発計画を踏まえ、総合的にイメージする必要がある。

以下の9つの項目から、2050年における北海道のあるべき姿を描いてはどうか。

- | | | |
|--------------------|-------------------|----------------|
| ・地域づくり・まちづくりに関すること | ・農林水産業・関連産業に関すること | ・自然環境の保全に関すること |
| ・交通・物流、情報通信に関すること | ・観光に関すること | ・エネルギーに関すること |
| ・防災・減災、国土強靱化に関すること | ・産業の振興に関すること | ・文化に関すること |

③北海道の役割に照らしてあるべき姿を描く

- 北海道が我が国に貢献する6つの役割に照らし、多くの関係者が共有できるように北海道のあるべき姿を描くことが必要である。
- あるべき姿・未来像を描くに当たっては、今後急速に進展するデジタル技術の活用、多様な主体の共創・施策間の連携が重要である。

2050年における北海道のあるべき姿

○国の課題解決に貢献するために北海道が果たすべき6つの役割の下に、13の「あるべき姿」と、37の「未来像」によって2050年における北海道のあるべき姿を描いてはどうか。

北海道の役割1 分散型国づくりを支える地方創生を先導する

あるべき姿 1

地域で生まれ、育ち、安心して暮らしていくことのできる社会

あるべき姿 2

国内外から人を引きつけるライフスタイル等

あるべき姿 3

豊かな資源を活かして自立・循環する地域経済

あるべき姿 4

地域に活力をもたらす基幹産業

あるべき姿 5

経済・社会を支えるネットワークの確立

あるべき姿 6

北方領土隣接地域の振興の実現

北海道の役割2

豊かな土地・水資源等を活かして我が国の食料安定供給を支える

あるべき姿 7

高い食料生産力を有する農水産業・食関連産業

北海道の役割3

豊富な地域資源を活かして我が国の脱炭素化を先導する

あるべき姿 8

脱炭素社会を実現し、再生可能エネルギー基地となる

北海道の役割4

国民共通の財産である北海道の自然環境・文化を受け継ぐ

あるべき姿 9

北海道独自の自然や文化を保全し、受け継ぐ

あるべき姿 10

豊かな自然と共生する持続可能な社会を創造

北海道の役割5

生産空間を守り安全・安心に住み続けられる強靱な国土づくりを図る

あるべき姿 11

大規模災害から人命と社会経済を守り、我が国の食やエネルギー等を支える

あるべき姿 12

切迫する大規模災害に対応した被災リスクの分散

北海道の役割6

競争力のある産業を育成し日本の経済成長に貢献する

あるべき姿 13

世界市場を見据えた「食」「観光」「再生可能エネルギー」産業の形成

2050年における北海道のあるべき姿

北海道の役割1 : 分散型国づくりを支える地方創生を先導する

北海道のあるべき姿1 : 地域で生まれ、育ち、安心して暮らしていくことのできる社会

未来像 ① : 地方部において必要な生活機能を楽しむ【地域づくり・まちづくり】

- ・デジタル技術の進展を契機に、弱点とされていた広域分散型の地域構造を、全てのサービスをネットで享受できる社会を実現することにより克服し、住み続けたい、住んでみたいと感じる北海道の豊かな暮らしの実現を目指す。

未来像 ② : 圏域中心都市と地方部の市街地における豊かなコミュニティの再生・創出【地域づくり・まちづくり】

- ・市街部に、医療・福祉・商業等のサービス機能が集積されるとともに、働く機会、特に、女性の働く場が確保されている。また、まちなかにおいて、様々な人々が出会い、交流し、滞在できる空間や拠点が形成され、豊かなコミュニティと活気を取り戻すことを目指す。

未来像 ③ : 日常生活において誰もが快適で容易に移動【地域づくり・まちづくり】

- ・自動運転の技術革新等により、通院、買い物等の日常生活に必要な移動が快適かつ容易にでき、持続可能な地域交通が実現されることを目指す。

北海道のあるべき姿2 : 国内外から人を引きつけるライフスタイル等

未来像 ④ : 人口減少に適応した社会システム・ライフスタイルに転換【地域づくり・まちづくり】

- ・多地域居住、テレワーク、兼業など多様な働き方やデジタルの実装などの社会のニーズに応じた仕組み等人口減少に適応した社会システムへの転換、ライフスタイルが形成されることを目指す。

未来像 ⑤ : 地域を支える多様な人材・交流を確保【地域づくり・まちづくり】

- ・地域に住む高齢者・女性・移住者等多様な人材が地域の活動に協働すること、更に他地域の人々ともリアル及びデジタルの交流等が進展することにより、地域の活動人口の増加を目指す。

北海道のあるべき姿3 : 豊かな資源を活かして自立・循環する地域経済

未来像 ⑥ : 自立したエネルギーの地産地消による地域経済循環を構築【エネルギー】

- ・それぞれの地域において住民や地元企業の参加による再生可能エネルギーや廃棄物等を活用したエネルギーの地産地消の取組により脱炭素化を推進し、地域の雇用の創出と環境と経済の好循環が生まれることを目指す。

未来像 ⑦ : 生産者と消費者がつながる地産地消の多様な仕組みを構築【農林水産業・関連産業】

- ・地域農業の特徴に応じて、消費者と食とのつながりの深化により、生産者と消費者がコミュニケーションを取りながら地域で生産したものを地域で消費する多様な仕組みを構築することを目指す。

2050年における北海道のあるべき姿

北海道のあるべき姿4 : 地域に活力をもたらす基幹産業

未来像 ⑧ : 多様な働き手がいつまでも働ける包容力のある農林水産業の実現【農林水産業・関連産業】

・スマート化による農林水産業の「誰でもできる化」や幅広い経営展開により、高齢者や障害者など様々な働き手が、兼業・副業等の様々な働き方で、いつまでも働き続けることができる産業構造への転換を目指す。

未来像 ⑨ : 所得の倍増で新たな農林水産業の担い手を確保【農林水産業・関連産業】

・スマート技術等によって極限まで生産コストを低減するとともに、国内市場への安定供給を果たしながら高収益な生産体系に転換する。また、幅広いアグリビジネスの展開によって農林水産物の付加価値を最大化し、地域全体で所得の向上を目指す。

未来像 ⑩ : 地方部に年間を通じた誘客の実現【文化】【観光】

・地方部に誘客させるため、地方部への交通アクセス改善、アドベンチャートラベル等の新たな商品開発等を行うとともに、食、文化観光を推進することで、観光客の季節変動を小さくし、地方部への経済波及効果を高めることを目指す。

北海道のあるべき姿5 : 経済・社会を支えるネットワークの確立

未来像 ⑪ : 広大な北海道で効率的な交通ネットワークを確立【交通・物流、情報通信】

・都市間や生産地と消費地をつなぐ交通ネットワークが整備され、効率的に移動・輸送ができるとともに、札幌のゲートウェイ機能が強化され、北海道新幹線の延伸効果が全道に波及していることを目指す。

未来像 ⑫ : 地域や遠隔消費地に必要なモノを届ける物流改革【交通・物流、情報通信】

・イノベーションによる物流の効率化等によりコスト及び環境負荷を軽減し、地方部で暮らす人々の生活を支え、農水産物等の生産空間で生み出した北海道の価値を国内外に届けることを目指す。

未来像 ⑬ : 地方部まで高度なデジタル基盤が整備【交通・物流、情報通信】

・Beyond5G(いわゆる6G)など高度な情報基盤が地方部まで整備され、地域住民の生活に不可欠なサービスをデジタル技術の活用により維持・確保するとともに、基幹産業等の高度化や地域の新しい産業の創出を目指す。

北海道のあるべき姿6 : 北方領土隣接地域の振興の実現

未来像 ⑭ : 安定した地域社会の形成【農林水産業・関連産業】【観光】

・北方領土隣接地域において、水産業や観光等の地域産業の活性化による地域振興、大規模地震対策など防災対策による地域防災力の強化等を推進し、安定した地域社会の形成を目指す。

北海道の役割2 : 豊かな土地・水資源等を活かして我が国の**食料安定供給**を支える

北海道のあるべき姿7 : 高い食料生産力を有する農水産業・食関連産業

未来像 ⑮ : 極限まで効率化した生産体制で生産力を向上 【農林水産業・関連産業】

- ・大区画化及びスマート技術等で極限まで生産を省力化するとともに、飼料等の過度な輸入依存から脱却し、食料生産力の向上により我が国農水産物の安定的な供給体制の実現を目指す。

未来像 ⑯ : 災害時にも農水産物の安定供給を確保 【農林水産業・関連産業】

- ・大規模地震や激甚化・頻発化する水災害等に対する農業生産基盤や水産基盤の安全性を確保し、災害時においても食料の安定供給を支えることを可能とする、強靱な農業生産基盤や水産基盤の構築を目指す。

未来像 ⑰ : マーケットインのフードシステムの確立 【農林水産業・関連産業】

- ・農水産物に関するデータを生産から流通・消費・販売に至るまでスマート・フードチェーンで連結し、多様化する消費者ニーズに対応できるフレキシブルなフードシステムの構築を目指す。

北海道の役割3 : 豊富な地域資源を活かして我が国の脱炭素化を先導する

北海道のあるべき姿8 : 脱炭素社会を実現し、再生可能エネルギー基地となる

未来像 ⑱ : エネルギー基地の確立 【エネルギー】

・北海道に豊富に賦存する再生可能エネルギーが地元の理解を得て最大限に活用されるとともに、北海道のみならず他地域を含めて活用されるエネルギー基地となることを目指す。

未来像 ⑲ : 水素社会の実現 【エネルギー】

・再生可能エネルギーの貯蔵・輸送媒体として水素・アンモニア等を活用する水素社会を実現するとともに、水素関連企業による雇用創出など地域経済の活性化を目指す。

未来像 ⑳ : 徹底した省エネルギー社会の実現 【エネルギー】

・国民の理解を得つつ、北海道の地域特性からCO₂排出量が多い家計部門、運輸部門において徹底した省エネ化等の取組により省エネルギー社会の実現を目指す。

未来像 ㉑ : CO₂吸収源としての機能を最大限発揮し、我が国の脱炭素化に貢献 【農林水産業・関連産業】【エネルギー】

・北海道の豊富な森林資源等を最大限に活用するための健全な整備・保全、自然が有する多様な機能を積極的に活用したインフラ整備を進め、脱炭素社会の実現を目指す。

北海道の役割4 : 国民共通の財産である北海道の**自然環境・文化**を受け継ぐ

北海道のあるべき姿9 : 北海道独自の自然や文化を保全し、受け継ぐ

未来像 ⑳ : アイヌ文化の振興等を推進する 【文化】【観光】

・文化振興、地域振興等を含めたアイヌ政策を総合的かつ効果的に推進するとともに、アイヌ文化伝承活動等が盛んな地域と民族共生象徴空間(ウポポイ)との連携を図り、アイヌ文化復興等に関する取組を全国的に拡大する。

未来像 ㉑ : 北海道が世界に誇る北の縄文遺跡、近代の開拓文化等を保全・継承 【文化】【観光】

・開拓の歴史といった近代文化に加え、北の縄文遺跡を文化資源として活用した観光振興が定着し、文化が保全、継承されていることを目指す。

未来像 ㉒ : 持続可能な観光が定着し、北海道の自然や文化の価値が向上 【文化】【観光】【自然環境の保全】

・文化遺産、祭り・風習等地域文化の保全と観光を両立し、地域の価値を高め、次世代に確実に受け継いでいくとともに、脱炭素化の取組、廃棄物の削減等を通じて、地域の自然環境・景観の保全と持続可能な観光地の実現を目指す。

未来像 ㉓ : 「食」「木」の理解を通じて農山漁村固有の文化を継承 【農林水産業・関連産業】

・食育と木育によって全ての道民が農山漁村に対して深い理解と愛着を持つとともに、地域に関わる様々な人々によって農山漁村固有の伝統・文化・祭りを守り、発展させていることを目指す。

北海道あるべき姿10 : 豊かな自然と共生する持続可能な社会の創造

未来像 ㉔ : 環境負荷を軽減して生物多様性を保全する持続可能な農林水産業の実現 【農林水産業・関連産業】

・農林水産業の環境負荷を軽減し、欧州に匹敵する有機農業の生産地になるとともに、気候変動による様々な影響に適応した生産体制の構築を目指す。

未来像 ㉕ : 資源を最大限に利活用する循環型社会の形成 【自然環境の保全】【エネルギー】【防災・減災、国土強靱化】

・豊かな自然と共生した持続可能な地域社会を形成するために、リデュース、リユース、リサイクルを進めるとともに、廃棄物を資源として最大限活用することにより、循環型の地域づくりを目指す。

未来像 ㉖ : グリーンインフラの活用による持続可能で強靱な国土の形成 【自然環境の保全】【エネルギー】【防災・減災、国土強靱化】

・地球温暖化や防災・減災等の観点を踏まえ、北海道の自然環境や農業等の地域特性を活かしたグリーンインフラの機能を活用して持続可能で強靱な国土を目指す。

北海道の役割5 : 生産空間を守り安全・安心に住み続けられる**強靱な国土づくり**を図る

北海道のあるべき姿11 : 大規模災害から生命・財産を守り、社会の重要な機能を維持し、我が国の食やエネルギー等を支える

未来像 ⑲ : 気候変動や大規模地震・津波等に対して安全・安心な地域社会を構築 【防災・減災、国土強靱化】【交通・物流、情報通信】【エネルギー】

・自然環境や農業等の北海道の地域特性を活かした流域治水や大規模地震・津波等からの避難体制の整備など、あらゆる関係者の総力により防災・減災が主流となる安全・安心な地域社会の構築を目指す。

未来像 ⑳ : 人流や物流の確保と災害からの速やかな回復 【防災・減災、強靱化】【交通・物流、情報通信】【エネルギー】

・交通ネットワークの多重性・代替性や地域分散型エネルギーシステム等も含めた電力等のライフライン機能が確保され、被害の最小化と災害からの速やかな復旧・復興体制の構築を目指す。また、交通基盤等のインフラが持続可能な形で維持される体制を目指す。

未来像 ㉑ : 生産空間を守り基幹産業を災害時にも継続 【防災・減災、強靱化】【交通・物流、情報通信】【エネルギー】

・基幹産業の生産基盤や物流基盤の強化、航路も含めた輸送手段の代替性、事業の継続体制の確保等により、災害時にも基幹産業が継続できる体制の構築を目指す。

未来像 ㉒ : 積雪寒冷地特有の災害に対する脆弱性の克服 【防災・減災、国土強靱化】【交通・物流、情報通信】【エネルギー】

・暴風雪や大雪に対する冬期交通の安定性を確保するとともに、冬期に地震等の大規模災害が発生した場合に避難行動や復旧活動が困難になるなどの積雪寒冷特有の被害の脆弱性を克服することを目指す。

北海道のあるべき姿12 : 切迫する大規模災害に対応した被災リスクの分散

未来像 ㉓ : 国家的規模の災害に対する被災リスクを最小化 【防災・減災、国土強靱化】

・企業の本社機能や生産拠点、データセンター等の道内への移転により北海道がリスク分散の受け皿となるとともに、国家的規模の災害時に北海道の食やエネルギー供給力による支援等の役割を最大限発揮することを目指す。

北海道の役割6 : 競争力のある産業を育成し日本の経済成長に貢献する

北海道のあるべき姿13 : 世界市場を見据えた「食」「観光」「再生可能エネルギー」産業の形成

未来像 ③④ : 世界市場に北海道ブランドを確立し、道産農水産物・食品の輸出を拡大 【農林水産業・関連産業】

- ・拡大する海外市場に向けて安定的な輸出を可能とする生産体制を構築するとともに、北海道ブランドを確立し、道産農水産物・食品の輸出の拡大を目指す。

未来像 ③⑤ : 世界トップクラスの観光地を形成して世界市場に北海道ブランドを確立 【観光】【交通・物流、情報通信】

- ・量から質への転換を図るため富裕層に対する付加価値の高い施設・サービス・観光資源の造成等により、観光の生産性の向上を目指す。また、安全・安心で速達性の高い移動の実現、外国人旅行者など多様な旅行者の受入環境の整備により、世界トップクラスの観光地の形成を目指す。

未来像 ③⑥ : 再生可能エネルギー関連産業の成長産業化 【産業の振興】

- ・北海道に豊富に賦存する再生可能エネルギーを活かした取組が展開され、我が国の脱炭素化に貢献するとともに、道内の再生可能エネルギー関連産業の振興、地域に雇用が創出されることを目指す。

未来像 ③⑦ : 地理的・気候的な優位性を活かした産業の創造 【産業の振興】

- ・北海道の広大な土地や気候等の地域特性や地域資源を活かした宇宙関連産業及びデジタル産業の振興、フードテックを活用した食関連産業及び温暖化に適応した農産物の導入等、新たな産業等の創出を目指す。